

東京新聞 2007-4-

飛び立て 竹とんぼ先生

堀池さん（中央）から「なぜの作り方の説明を受ける参加者一歩は都世田区の桜丘小学校で



既に十ヵ所で認定の地図クリープが発足。この一年で和歌山県や鹿児島県など首都圏以

正面の筋を重視するたゞ梅田の如きが、講師は「原則有價」だ極まつ子

「団塊」も地域でイキイキ

ネット活用は徹底して、外にもがうた。
講師の前にいた人は美枝。このうち、横浜市立区の
元勤務教員で事前調査は電子メールを使って
講師が持つもの。中間の助け
を希望する教員を開き、結果を
記録する。これが多くのい。道を会ったので、私たちも楽し
く人を集めることができたの
は、ネットのおかげだ」と語
が増えてきた。これは地域の
が、現状では多岐に亘るのが
仕事がない例も多い。
グループは、昭和以降、小学校
さんは役立つ小さなヒント
放課後事業で十回以上、教室
で開いた。グループの大輪
として講義をきむなどして、
報酬をもらえるようになら
ば、四十代の親などは、
も参加してもらおう。これ
は、二、三のある勤務教員が
け一二歳のある勤務教員が
、お金の流れをつくりま
ださん。
いと夢を描いていく。



養成講座 ネット駆使で広がり

地域で竹とんぼ教室を開いてみませんか。東京都三鷹市で生まれた竹とんぼ指導者の輪が、インターネットを使して各地のシニア層に広がっている。定期巡回を組む団塊世代の地域参加も後押ししそうだ。



子どもたちに作り方を指導する「どこ竹会」の講師=横浜市戸塚区の川上小学校で

このおもあが、手ひらぢ
を加えな。一回(切つちや)。(さは)
てください。」これは勘です
よ。講師の助言乞け、慣
れない手つきをやと作り(わは)
に取り組むのは、シニア層
を中心とした、四十五人
指導者育成を目的に、東京都
世田谷区の小学生と白石開か
れた生徒講座の、轟た
王龍は、(こ)もやんば
教養室。リーケー合。(こ)
(こ)の。受講者は材料講
法や、人会教養開く美術ま
かづ
でを、時間かけて学び、講師
どもの

「竹とえぼ作りは、
時代的な遊びだった
」

仕上げの色塗りをする児童たち。「おしゃれにして、男の子だけの遊びというイメージを変えたい」=横浜市戸塚区の川上小学校で